

ひかりのこ

3月園便り
認定こども園
聖ミエル幼稚園
2022年2月18日

月主題：信じる

「帰る場所でありたい」

2月は、大雪が降ったり、コロナウィルスの感染数が急激に増えたり、幼稚園の運営にも様々な障害がありましたが、3月を前に状況がよくなっていく予感があります。春の訪れはもうすぐです。

今度の春は、聖ミカエル幼稚園にとって大きな転換期となります。園舎が新しくなり、形態も幼稚園型認定こども園から、幼保連携型認定こども園へと移行いたします。中山組さんの建築工事も今急ピッチで進んでいます。

さて、この度、卒園生、教会、在園の皆様にご寄付のお願いをいたしました。この寄付は、幼稚園のシンボルともなる玄関柱に取り付けられるサミュエル像、2階遊戯室のステージ幕、そして玄関を入れてすぐ左の絵本の部屋の整備に使われます。

寄付のお願いをするべきかどうか迷い理事長に相談した時に、「このような大きな事業は、皆様にお伝えするべきだ。」とアドバイスをいただきました。「そうか、勝手に幼稚園だけがこの転換期を受け入れるのではなく、今まで幼稚園に思いをかけてくださった方皆さんに広くお伝えして、お力をもらって、そして皆さんが集える場所としたらよいのだ。」と考えました。

多くの幼い子どもたちをお預かりする場ですので、セキュリティも厳しくなければいけないし、子どもたちが登園している時にはどなたでもどうぞ、というわけに行きません。しかし、日曜日、日曜学校にきてくださった後に、卒園した子どもたちや親御さんが絵本の部屋に顔をのぞかせてくれたら素敵だなあ、と思います。

前にもお伝えしたかもしれませんが、日曜学校には歴代の卒園生がやってきます。毎週来てくれるお子さんもいますが、あるときフラッとやってくるお子さんもいます。そうすると日曜学校のみんなから歓迎を受けます。「よく来たね。」「元気だった？」

教会や、それに連なる幼稚園は、子どもたちや保護者がいつでも帰ってこられる場所でありたいと思います。その象徴ともなる

「絵本の部屋」。4月すぐの日曜日には開館できないと思いますが、整備ができ次第、是非いらしてください。また、寄付のご協力のできる方は、少額でも全く構いません。どうぞよろしくお願いいたします。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「優しすぎる人々」

聖書にあるイエス様の言葉で、「へりくだった人々は、幸いである。その人たちは地を受け継ぐ」（マルコ5:5）とあります。へりくだった人々とは、他の訳では「柔らかな人々」とも言われます。

オリンピックのスキー女子ジャンプ競技で、道産子の高梨沙羅選手が、スーツの幅が2センチ大きかったとの理由で失格となりました。私も含めて多くの人が「なにそれ」と思ったに違いありません。問題はその後のもので、彼女はひたすら自分の非を詫び、一身に責任を負おうとしていて、痛々しい限りです。国を代表するスポーツ選手は、普段からずいぶん感謝を口にします。自分の力で代表をつかみ取ったというよりは、周りの人々のおかげと言いなさいという同調圧力があるのかもしれませんが、高梨選手の場合は、その思いがもっと強く出ている気がします。要するに、優しすぎる、正直すぎるのです。

優しすぎる人々は敵を作りません。その代わりに、あまり自分の意見を言わず、じっと耐え、強い意見を表明する人たちの中で縮こまってそれに従い、時には損をし、最悪の場合はいじめに合い、片隅に追いやられてしまうこともあります。イエス様の言われる「へりくだった人」とはそういう人なのかもしれません。そして、イエス様はそのような人々が大好きで、放っておけないのです。

優しすぎる人々よ、あなた方が生きる場所はちゃんと用意されている、だから安心しなさい。そんなイエス様の声が聞こえるような気がします。

チャプレン 司祭 下澤 昌